

おおたの教育

今号の主な内容

第101号

大田区教育委員会広報

平成21年(2009年)
10月1日発行

第1面 大田区学習効果測定の結果から
第2面 より良い・よりわかる授業を提供するために
第3面 教育研究推進校の取り組み
第4面 郷土博物館展示リニューアル
大田区民スポーツまつりの開催

発行/大田区教育委員会 〒144-8623 大田区蒲田五丁目13番14号 TEL.03-5744-1111(代表) HP <http://www.city.ota.tokyo.jp/kyouiku>

平成21年度大田区学習効果測定の結果から

生きる力の源となる基礎的学力を 確実に定着させるために

大田区学習効果測定は、児童・生徒の前年度の学習定着状況を把握するため、区立学校に通うすべての小学校4年生から中学校3年生を対象に実施しています。右の表は、今年5月8日(金)に実施した大田区学習効果測定の結果です。

正答できることを期待した点数に達した児童・生徒の割合は、中学校2年の数学・理科・英語では前年度の結果を下回りましたが、他の教科ではすべてが上昇しており全体的には基礎的な学力の向上が見られます。

小学校では、すべての教科で期待した点数に達した児童の割合がおよそ7割に達しており、特に4年の算数、5年の社会と算数では8割を超える結果となりました。一方、中学校においては、1年の国語と数学では7割に達しましたが、2・3年の社会と理科では5割を下回る結果となり、さらなる授業の改善と学習内容の確実な定着が課題となっています。

教育委員会は、この結果を詳細に分析し、児童・生徒に確かな学力を定着させる「よりわかりやすい授業」を実現するため、授業改善に取り組んでまいります。今号では昨年度の結果を受け、各学校が進めた「学力向上のための取り組み」の中から、今回の大田区学習効果測定において特に顕著に成果が現れた学校を3校選び、その取り組みを紹介します。

平成21年度大田区学習効果測定の結果

【期待した点数に達した児童・生徒の割合(%)】(カッコ内は前年度比)

	小学校(60校)			中学校(28校)		
	4年	5年	6年	1年	2年	3年
国語	69.5 (+0.4)	73.8 (+0.5)	77.3 (+3.0)	73.1 (+1.6)	61.0 (+0.9)	59.6 (+2.9)
社会	79.2 (+0.2)	87.3 (+2.5)	72.8 (+3.4)	57.8 (+3.4)	43.5 (+1.4)	44.3 (+3.7)
算数・数学	80.8 (+0.8)	81.1 (+1.6)	76.6 (0)	74.2 (+1.4)	56.0 (-0.8)	58.9 (+0.6)
理科	74.1 (+2.7)	67.5 (+1.7)	74.4 (+1.5)	63.2 (+1.7)	43.5 (-1.3)	47.0 (+4.8)
英語					65.7 (-1.0)	58.2 (+3.3)

【正答できることを期待された点数】

小学校

・4年 国語(73.2) 社会(71.9) 算数(74.9) 理科(76.7)
・5年 国語(71.0) 社会(71.0) 算数(74.6) 理科(71.0)
・6年 国語(71.0) 社会(69.2) 算数(73.7) 理科(70.6)

中学校

・1年 国語(72.8) 社会(68.3) 数学(75.0) 理科(69.3)
・2年 国語(74.0) 社会(70.7) 数学(65.0) 理科(63.3) 英語(74.4)
・3年 国語(71.6) 社会(66.3) 数学(65.0) 理科(64.1) 英語(65.9)

学校での学力向上に向けた特徴的な取り組み

学習環境づくりを通して、 基礎学力の定着を図る

大森第七中学校(杉浦 克博校長)

大森第七中学校では、基本的な生活リズムを身につけさせ、落ち着いた学習環境をつくることで学力の向上につながると考え、毎日の学校生活を意識的に取り組ませています。

具体的には、学級指導や委員会指導、部活動など、さまざまな活動を通じて規範意識の向上を図っています。また、昨年度からは夏休み中に教育相談期間を設け、生徒と先生とのコミュニケーションの場をつくっています。この取り組みにより、生徒と教員の信頼関係がさらに深まりました。現在、どの教室でも落ち着いた雰囲気の中で「学び合う授業」が行われています。また、「早寝・早起き・朝ごはん・家庭学習」を合言葉に生活リズムの定着にも力を入れています。

教科指導においては、数学・英語の習熟度別指導やステップ学習、理科のチームティーチング、放課後・土曜日の補習教室など、生徒一人ひとりの学習の定着状況に合わせた指導を行い、基礎・基本となる学力の確実な定着を図っています。



授業規律の確立

—豊かな心の醸成とともに—

羽田中学校(柏 隆校長)

羽田中学校では生活指導を軸に授業規律を確立すること、日常の部活動や学校行事・諸活動に生徒が積極的に取り組むことから生まれる成就感や達成感が学習意欲の向上につながるという考えのもと、次のような取り組みを進めてきました。

チャイムと同時に授業を始める。授業の始めと終わりは服装・姿勢を正してあいさつする。清潔で整った教室環境を生徒とともに作る。当たり前のことですが、教員は授業規律の確立をめざし、生活指導部を中心に基本的な学習環境の整備に努めています。

そして、表現力・発表力をつけるため、移動教室や職業体験、社会や理科の授業などでは新聞作成活動を重視するとともに、生徒朝礼・生徒総会などでは原稿を読まず自分の言葉で表現することを生徒に課し、指導しました。また、昨年度から配置された学習指導講師による補習教室を毎日放課後に実施し、基礎学力の定着を図っています。

今後取り組むべき課題としては、家庭学習の時間の確保や忘れ物をなくすなどの生徒の学習習慣の確立、基礎学力の定着を図るための教科指導法の改善と魅力ある授業の実施などです。



学校と家庭との連携が学力向上の大切な鍵

—チーム千鳥の取り組み—

千鳥小学校(長谷川 隆司校長)

「学力向上」には以下の3つが大切です。

①落ち着いて集中して取り組むこと。②学習意欲をもって取り組むこと。③繰り返し取り組むこと。

【千鳥スタンダード(生活規範)】(→①)

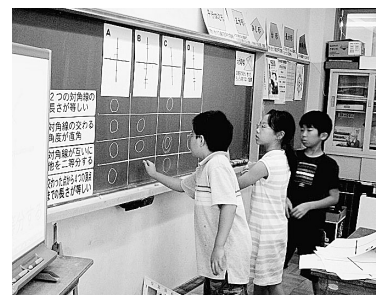
チャイムと同時に全員着席、授業開始。決められた学習道具以外は使用禁止など、細かな点まで全学級で徹底して実施しています。

【問題解決型学習】(→②)

算数や理科では「なぜそうなるのだろう。」と興味をもたせる問題を工夫して提示しています。今まで学習してきたこと、日常体験していることを活かして自分なりの考えを発表させています。

【家庭学習スタンダード(宿題など)・朝学習・補習教室(学習指導講師の活用)】(→③)

学年ごとに子どもたちの実態に合わせて計画的に実施しています。出された課題は全児童が必ず仕上げ、教員は児童一人ひとりの点検と指導を行います。基礎的な内容が身につく、自信にもつながります。保護者にもご理解いただき、学校と家庭で連携して行うことが一番大切であり、効果も倍増します。



子どもたちの学力向上を図るためには、

**基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上、
そして学習意欲の育成と家庭学習の習慣づけが重要**です。

今回紹介した3つの学校が共通して取り組んでいるのが、「基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上」、「子どもたちの学習意欲の育成と家庭学習の習慣づけ」です。

教育委員会では、今年度から早寝・早起き・朝ごはん月間やステップ学習の導入による家庭学習の支援などの取り組みを始めていますが、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上、学習意欲の育成と家庭学習の習慣づけ、いずれの課題も家庭と学校・地域が連携を図り、共通理解の上で子どもたちを支援していかなければならない問題です。

学校は学校としての役割を果たすために最大限の努力を図ってまいります。各家庭においても積極的な取り組みをお願いします。

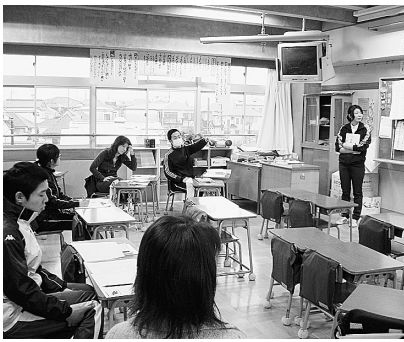
問合先 指導課指導主事 TEL 5744-1435 FAX 5744-1665

子どもたちに より良い・よりわかる授業を 提供するために

指導力の向上をめざす自主研修

放課後、教室で学び合う先生

久原小学校（清水 一豊校長）



久原小学校には、授業力・指導力向上に取り組む「教員による教員のための研修組織『ひまわりの会』」があります。ひまわりの会の活動の基本は、「体験する」です。話を聞く・教わるという受身の形の研修ではなく、模擬授業や実技研修などの具体的・実践的な活動を通して、教員としての技術向上をめざしています。この研修の場は、若手の教員が先輩からその経験や技術を学ぶとても有効な機会であるとともに、先輩教員にとっても今まで培った知識や経験を後輩に伝えるために振り返るといった新たな学びの機会にもなっています。

会の運営の中心となっているのは、副校長と経験年数10年前後の中堅の教員です。まず研修のテーマを決め、ベテランの教員へ講師を依頼します。そして若手の教員を模擬授業の授業者と助言者に分けペアを組ませ、授業を教える側・教わる側の両方を体験し、2つの視点から授業改善に取り組めるようにしています。

副校長も教員も日々の多忙な業務を抱え、研修会の時間をつくり出すのは非常に大変なことです。しかし、「子どもたちにより良い授業・よりわかる授業を提供したい」という熱い思いが本校の教員を動かしています。教員が自ら、意欲的に学び合う姿や気質は、子どもたちにも伝わります。本校では、これからも教員が一丸となって、子どもたちのために、自分自身のために、授業力・指導力の向上に努めてまいります。

英語教員国際化促進事業

国際化社会に対応できる子どもの育成

社会や経済などの国際化が急速に進展する中で、国際的な活動に触れ、参画する機会が増えているとともに、誰もが世界で活躍する可能性が広がっています。また情報化の発展により、さまざまな知識と情報を入手・理解し、さらに発信・対話をする能力が強く求められています。このような状況の中で、英語は母国の異なる人々をつなぐ国際的共通語として中心的な役割を果たしており、次代を生きる子どもたちには欠かすことのできないコミュニケーションの道具です。

そのため、小・中学校における外国語活動においても、コミュニケーション能力の育成をめざした指導が重要であり、それを担う教員の指導力の向上が求められています。

教育委員会では今年度、文部科学省の「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画（平成15年3月策定）」に基づく英語教員の指導力向上及び指導体制の充実の中で、目標として掲げる教員の英語力『英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点程度以上』を達成するため、希望する区立中学校の英語教員に対し、英語力向上自己啓発のための支援として外部検定の検定料の全額を区費により助成することにしました。

そして、これまで小学校においては、国際理解教育を促進するために外国人の外国語指導助手（ALT）を活用した外国語活動を実施してきました。また新しい学習指導要領（平成20年3月告示）では、小学校5・6年での外国語活動を教育課程の中に位置づけ、「外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながらコミュニケーション能力の素地を養う」ことを目的とし平成23年度から完全実施されます。教育委員会では、今まで以上に充実した内容で外国語活動を実施するために夏休みを中心に日頃子どもたちを指導している外国語指導助手（ALT）を全小学校に派遣し、教員の英語力・英語指導力を向上させるため校内研修を実施しました。



3時間、2回のワークショップ形式の研修では、基本的な英語力のスキルアップとともに「英語ノート（文部科学省作成）」の活用方法や授業で使えるゲームや歌、クイズを活用しての指導方法などを学びました。各小学校では、子どもたちが楽しく、しっかりと外国語活動ができるように各教員が研修に取り組んでいます。

第25回 大田区立中学校生徒海外派遣報告

セーラム市との友好親善と 国際社会に適応できる人材の育成

7月18日（土）から7月29日（水）の12日間、区立中学生56名（各学校2名）をアメリカ合衆国に派遣しました。

この事業は中学生が海外での生活体験を通して、外国の生活や文化の理解を深めること並びに英語の習熟を図るとともに、国際社会において信頼と尊敬の得られる人間性豊かな生徒を育成することを目的に実施しています。

今回の海外派遣ではボストンを経由し、大田区の姉妹都市であるセーラム市を訪問、セーラム市のドリスコル市長を表敬訪問し、議場にて大田区からの派遣団として市長への公式挨拶を行いました。また、Aコースはセーラム市、Bコースはディアフィールド市近郊に分かれホームステイを行い、アメリカの家庭での生活を体験するとともに、世界の経済・金融・流行・医学・娯楽・メディアの中心と言っても過言ではないアメリカ最大の都市「ニューヨーク」を視察しました。

今回の海外派遣を通して得た知識や経験は、派遣生徒一人ひとりが人生の財産とするとともに、帰国後に作成した報告書や報告会、そして学校や地域でのさまざまな活動の中で、友だちや家族、地域の方々に伝え広げていく大きな役割を果たしてくれるものと期待しています。

海外派遣で気づいたこと

大森第四中学校 竹中巧也（Aコース）

僕は、今回の海外派遣で、いつも一緒にいる家族や友だちがいかに大切かがわかりました。

ホームステイの初日、ホストファミリーの方々に「Good morning Kouya. How are you?」と言われて、僕は、とてもうれしくなりました。僕を家族の一員として認めてくれた感じがしたからです。そして、同時に日本にいる僕を支えてくれる家族や友だちのやさしさや温かさに気づくことができました。「いつもは当たり前前に感じていることでも感謝しなければならぬ」と思いました。

そして、僕は今回の海外派遣に参加して、いろいろなことを学べたと思います。今後も、この海外派遣での経験を生活やいろいろな活動に活かしていきたいと考えています。



セーラム市の小学校の前で

いつか、きっと・・・

安方中学校 鈴木愛海（Bコース）

アメリカの家で私を待っていたのは、大きな家と時々野生の動物も遊びに来るといふ広い庭。私が住んでいる日本の家とはかけ離れた別世界が広がっていた。私は自然に囲まれたこの家が好きになった。

私は密度の濃い時間を過ごせるように努力した。かたっぱしから「What's this?」と尋ね、そこから話題を展開したり、日本について話したりした。一緒に行ったホームパーティは本当に楽しかった。

ニューヨークでバスから降りた時、うまく息ができなかった。空気がこんなに違うのかと実感した瞬間だった。

いつかきっと、ホストファミリーを再び訪ねたい。そして、アメリカで学んだたくさんのことを忘れず、いろいろなことに活かしていきたい。



ニューヨークにて

教育研究推進校の取り組み

教育委員会では、大田区における学校教育の推進・充実を図ることを目的に、学校が当面する教育課題を積極的に解決するための研究や活動を奨励するため、教育研究推進校を指定しています。

個々の教員はプロ意識をもち、よりよい授業の姿を求め、日々努力をしています。しかし個人的な取り組みには限界があり、教員の指導力・授業力を向上させるためには学校全体で組織的に研究に取り組むことが極めて重要です。

今号では、教育研究推進校としての研究が2年目となる7つの学校の取り組みを紹介しますが、これらの研究の成果は全区立小・中学校で共有し、今後大田区全体の学校教育活動に活かしていきます。

心も体も健やかな子どもの育成をめざして

松仙小学校 (杉本 三苗校長)

松仙小学校では、心と体の健康について「自分をよく知り、高めようとする子」を育てるため、「運動・保健・食事」の3つの側面から研究に取り組んでいます。



運動では、体力を高める運動を中心に授業改善を図り、体力の向上と主体的な取り組みについて工夫しました。保健では、心と体の両面から健康づくりに取り組み、児童に分かりやすく理解させるため、教材・教具の作成、グラフ・写真の提示、体験活動などの工夫を図りました。食事では、食べ物への関心を高め、自分の食生活の課題に気づくようにし、食材を育てたり、調理したり、それを食べたりする体験や栄養バランスをとることの大切さを学ぶ取り組みを通して、しっかり食べられるようにすることをめざしました。

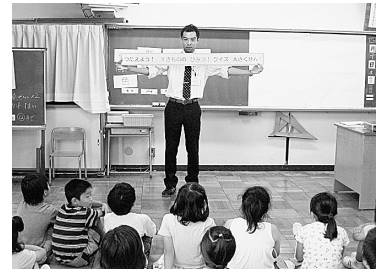
生活科・理科 大好きな子を育てるサイエンスコミュニケーション

清水窪小学校 (藤原 清章校長)

清水窪小学校では、「生活科・理科大好きな子を育てるサイエンスコミュニケーション」を主題に掲げ、東京工業大学と連携を図りながら研究を進めています。

生活科では、身体の諸感覚を十分に使い「見つける・比べる・たとえる」などの多様な学習活動を重ね、科学的なものの見方や考え方の基礎となる力を育てています。

また理科では、観察や実験を通して気づいたことや考えたことをはっきりさせたり、友だちに伝えやすくするために、「イメージ図を描く・話を整える・表やグラフに書く」などの表現活動を重視した学習を展開しています。さらに、127人の子どもたち全員が生活科・理科を好きになるように指導の工夫・検討を続けています。



言葉から感じ、考え、学び合う児童の育成

馬込第二小学校 (太田 眞也校長)

馬込第二小学校では、「言葉」を意識した学習活動を行うことで、子どもたちが、話すとき・書くときに上手に言葉を使いこ



なせるようになり、物事を深く考える力、コミュニケーションが円滑にできる力が育つと考え、国語だけでなく音楽や図画工作における言語活動の充実に力を注いでいます。

その取り組みの1つとして、地域の馬込文士村作品を取り入れた文学教材の開発や鑑賞形態の工夫、日常的に言葉に触れられるよう全校での詩の音読や読書、保護者による読み聞かせなどを行い、言語学習環境を整えています。また、「言葉」に着目する学習活動を通じて、子どもたちに学び合いの姿勢を育てたいと考えています。

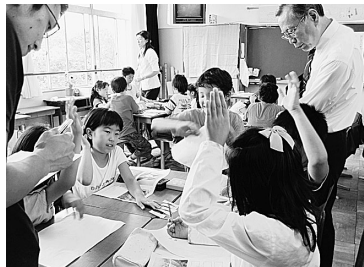
学び、学び合う学校を目指して

—個の学びから 集団の学びへ—

池雪小学校 (岩崎 保校長)

池雪小学校では、「学び合い」を合言葉に研究に取り組んでいます。「学び合い」の成立には、子ども一人ひとりの「個の学び」が不可欠です。「学び」とは、子どもにとっては新しい個との出会いであり、教師にとっては専門家としての成長であると本校の研究では位置づけています。

研究も2年目に入り、「学び合い」を成立させるための手立てもわかり、このことを学校全体で共通理解することで、子どもたちの学び合う姿がさまざまな活動の中で見られるようになりました。写真は3年の国語の授業での学び合いの様子です。学び合いにより、児童の学力向上、教師の指導力向上につながると考えています。



伝え合う力の育成 国語科

「話すこと・聞くこと」の言語活動を中心として

おなづか小学校 (酒巻 浩二校長)



旧蓮沼小学校と統合して5年。

おなづか小学校では、保護者・地域が安心して任せられる学校をめざし、子どもたちにしっかりと学力を身につけさせること、教職員の指導力をより一層向上させることを第一に学校教育活動に取り組んでいます。

本校の研究では、話す・聞くという言語活動を通して、子どもたちの伝え合う力を育成することをねらいとし、教材解釈やねらいにそった学習展開の工夫、子ども同士の話し合いの組織などを意識しながら、単元の開発に取り組んでいます。



学習力を高める

—問題解決過程の中で育つ子どもたち—

田園調布小学校 (三留 利夫校長)

本校では、「これからの社会をよりよく生きるために必要な学力」を育むための考え方と授業実践のあり方を追求することに主眼をおいています。「学ぶ意欲をもって、新しい知識・技能を主体的に獲得し、目的の達成に向けて活用していくことのできる力」を『学習力』と定義し、これを高めて児童の総合的な学力の向上を目指しています。

『学習力』は、意欲を基盤として、思考力・表現力・判断力などで構成されており、それを支える要素として「かかわる力」や「学習習慣」「言語力」なども必要となります。

今年度は、生活社会・理科の学習指導を通して、これらの力を問題解決過程の中でどう育てていくか授業実践を通して研究を進めています。



体験的な活動や人とのかかわり合いの中で確かな自己肯定感を育む指導の工夫

小池小学校 (古家 眞校長)

生きる力の源は、「自己肯定感」です。小池小学校では、自己肯定感を「かけがえのない存在である自分を好きでいられる。自分に自信をもって前向きに行動できる。」ととらえ、研究を進めています。

子どもたちの自己肯定感を育むための取り組みとして、体験的な活動の中で、友だちや先生、地域の方々、異年齢集団とのかかわり合いを深めながら、さまざまな課題を解決できる場面を設定し、指導方法の工夫を行いました。学習の過程で課題を達成し喜びを感じることに、子どもたちは自信をつけ、そのことが確かな自己肯定感を育むことができると考え研究に取り組んでいます。



◇◇ 研究発表会の開催日時 ◇◇

学校名	日時
馬込第二小	21年11月13日(金) 13時25分～
田園調布小	21年10月30日(金) 13時15分～
松 仙 小	21年10月23日(金) 13時45分～
小 池 小	21年11月6日(金) 13時30分～
池 雪 小	22年1月29日(金) 13時40分～
清水窪小	21年11月17日(火) 13時15分～
おなづか小	21年11月13日(金) 13時35分～

問合せ 指導課指導主事
TEL 5744-1435 FAX 5744-1665

郷土博物館開館30周年展示リニューアルと休館のお知らせ

大田区の魅力を発信する拠点として

「郷土を学ぶ・楽しむ・散歩する」

をテーマに常設展示をリニューアル!

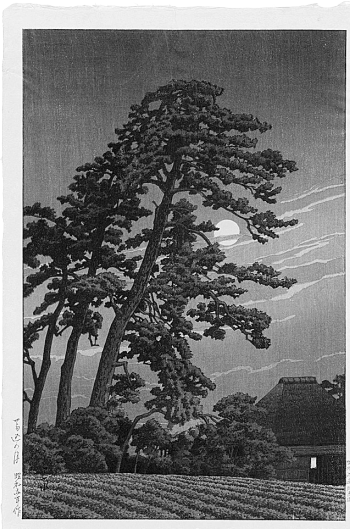
11月3日(火)文化の日に、郷土博物館が常設展示をリニューアルしてオープンします。

新しい展示では、区内にある全国的に有名な産業「海苔養殖」や「工場のみち」、交通の要「羽田空港」そして江戸時代の歴史を遺す「六郷用水」、大田区が発祥地の郷土玩具「麦わら細工」、文学愛好家なら一度は歩いてみたい「馬込文士村」などをわかりやすく解説するとともに、私たちの郷土「おおた」を自らの足で散歩するため、また多くの方々に訪れていただくための情報を発信します。

なお、展示リニューアルの準備のため、次の期間が休館となります。

休館期間 9月28日(月)～11月2日(月)

問合せ先 郷土博物館 **TEL** 3777-1070 **FAX** 3777-1283



川瀬巴水画「馬込の月(木版画)」昭和5年作
「馬込文士村の画家たち」コーナーより

第26回 大田区区民スポーツまつりの開催

スポーツの秋!!

体力測定やいろいろなスポーツにチャレンジしませんか?!

10月12日(月)の体育の日に、区内41か所を会場に「第26回 大田区区民スポーツまつり」を開催します。

各会場では、区内スポーツ団体などの協力により、さまざまなスポーツやレクリエーションを楽しむことができます。

ぜひ、ご家族やお友だちとお誘い合わせの上、ご参加ください。

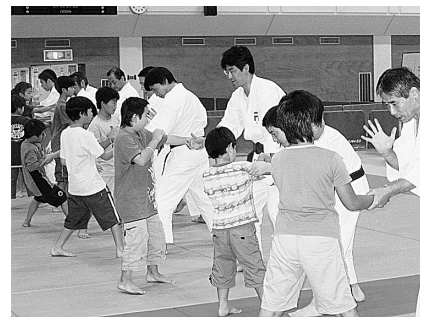
なお、会場やプログラムの詳細は大田区報、区設掲示板などでお知らせするとともに、ホームページに掲載しています。

日 時 平成21年10月12日(月・体育の日)

会 場 大森スポーツセンター、大田スタジアム、多摩川緑地、区立の小・中学校、民間スポーツ施設など(区内41か所)

問合せ先 大田区体育協会 **TEL** 5471-8787 **FAX** 5471-8789
社会教育課事業担当 **TEL** 5744-1447 **FAX** 5744-1539

H P <http://www.city.ota.tokyo.jp/event/sports>



平成22・23年度使用

中学校教科用図書採択の結果

平成21年8月5日(水)に開催した第3回教育委員会臨時会において、平成22・23年度使用中学校教科用図書の採択を行いました。

通常、教科用図書の採択は4年に1度行われますが、中学校においては学習指導要領の改訂に伴う新教育課程が平成24年度に完全実施されるため、平成22・23年度の2年間使用する教科用図書の採択となっています。

なお、今年度より新教育課程による学習が一部先行実施されている数学

・理科では、教科用図書に記載がない事項を学習する際に必要な教材は、文部科学省が作成し、すでに配布されています。



中学校1年で使用する教科用図書

問合せ先 指導課指導主事
TEL 5744-1435
FAX 5744-1665

平成22・23年度使用中学校教科用図書採択結果一覧

種 目	発行者	教科用図書名
国 語	光村図書出版	国 語
書 写	学校図書	中学校書写
社 会	地 理	東京書籍 新編 新しい社会 地理
	歴 史	東京書籍 新編 新しい社会 歴史
	公 民	教育出版 中学社会 公民 ともに生きる
地 図	帝国書院	新編 中学校社会科地図 初訂版
数 学	東京書籍	新編 新しい数学
理 科	第1分野	東京書籍 新編 新しい科学 1分野
	第2分野	東京書籍 新編 新しい科学 2分野
音 楽	一 般	教育芸術社 中学生の音楽
	器楽合奏	教育出版 中学器楽 音楽のおくりもの
美 術	日本文教出版	美 術
保健体育	学研教育みらい	新・中学保健体育
技術・家庭	技術分野	東京書籍 新編 新しい技術・家庭 技術分野
	家庭分野	東京書籍 新編 新しい技術・家庭 家庭分野
英 語	東京書籍	NEW HORIZON English Course

インフルエンザにご注意!!

新型インフルエンザが流行しています。
新型インフルエンザの感染拡大を防ぐためには、
各家庭での検温などの健康チェックや感染予防対策が重要です。

【インフルエンザの感染を防ぐために】

新型インフルエンザは季節性インフルエンザと同じく「咳やくしゃみによる『飛沫感染』」と「ウイルスが着いた手で口や鼻に触れることによる『接触感染』」です。

- 手洗い・うがいをきちんとしましょう!!
- 咳やくしゃみの症状がある時は、マスクをしましょう!!
- 人ごみなど感染の可能性のある場所への外出はひかえましょう!!
- 十分な休養をとりましょう!!

【発熱や咳などの症状があるときには】

- 早めに医療機関を受診しましょう。
※受診の際には医療機関に事前に電話連絡をし、医師の指示に従ってください。また、周りの人にうつさないように、必ずマスクをして受診してください。

■ 医師からインフルエンザの診断を受けた場合は、必ず学校に連絡をしてください。

問合せ先 学務課保健給食係 **TEL** 5744-1431 **FAX** 5744-1536

表 彰

- 第39回全日本中学校バレーボール選手権全国大会出場
大森第二中 男子バレーボール部



- 第36回全日本中学校陸上競技選手権全国大会出場
矢口中2年 北村 夢
- 第39回関東中学校バスケットボール大会 ベスト8
大森第七中 男子バスケットボール部
- 全国中学校ウエイトリフティング選手権大会 第2位
大森第七中3年 篠原 航平

教育委員会の主な議題

- 平成21年第7回定例会
・平成22年度使用中学校教科用図書採択資料報告 外1件
- 平成21年第8回定例会
・平成21年度第2次補正予算要求について
- ・平成20年度行政評価(事務事業)の結果について 外1件

教育委員会定例会の開催予定日

- 日時 平成21年10月21日(水)
平成21年11月19日(木)
平成21年12月22日(火)
- 時間 午後2時から
- 場所 本庁舎6階 教育委員会室

※予定が変更になる場合もあります。傍聴を希望される方は、あらかじめ下記までご確認ください。

問合せ先 教育総務課庶務係
TEL 5744-1422
FAX 5744-1535